

5点	あるがまま老いたし五月の風を聴く	与史
4点	チアリーダーのバトン投げ上げ五月晴	貞勝
	身ほとりの片付け済まず夏落葉	秀一
	菖蒲湯や邪鬼は四天の足の下	幸枝
	代掻きにはずむ子の声泥の顔	幸
3点	統計に載らぬ死のあり苔の花	守
	金時のような嬰の足菖蒲の湯	貞勝
	海上の富士も一品夏料理	幸
	若葉の香纏ひて阿修羅に對面す	溪水
	光あり蔭あり若葉のまわり道	文枝
	病む地球みまもりあるや夏の月	守
2点	この海にこの風をのせ幟立つ	幸
	花の香に五感目覚むる五月闇	幸枝
	ウイルスのじわり卵の花腐しかな	守
	卵の花やはや半世紀住み古りて	与史
	初夏やトンネルつなぐ海景色	秀一
	五月尽豪球きちり受けとられ	ヤエ子
	すれ違ふ傘かたむける緑雨かな	秀一
	木下閘川の流れの音高き	ヤエ子
	四阿の将棋三台昼寝犬	秀一
1点	昏れなづむ一とき灯すつつじかな	幸枝
	又来るね孫の声あり柿若葉	文枝
	レントゲン胸の鬚りや梅雨兆す	与史
	青空や新樹の末（うれ）にくすぐられ	幸枝
	葉桜やお蔵さらいの陶器市	貞勝
	象の鼻ゆらゆら立ちて電波の日	貞勝
	草むしり腰叩きつつ一休み	溪水
	難聴にも老鶯の声とどきけり	与史
	柿の花庭の鬼門を掃き清め	幸
	五月雨全身弛緩の日曜日	幸枝
	新茶淹れて妻と二人の会話かな	溪水
	新緑や空の深きに御柱	幸
	青風や猛スピードの自転車	ヤエ子
*	発つてすぐ江ノ電停り新樹光	貞勝
	熱き茶のしみるひととき桜散る	文枝
	ホルンの音心にしみる山開き	溪水
	青風空缶飛ばす丘の尾根	幸枝
	人も散り桜も散りておぼろ月	文枝
	箱根山空に向かふ芽さかんなる	ヤエ子
	立葵もち物多き下校の子	秀一
	隠したき古傷ひとつ新樹光	守
	更衣季節外れのマスクして	守